



岡山イノベーションコンテスト2019

独自のビジネスのアイデアや実践例を競う「岡山イノベーションコンテスト2019」(中国銀行、山陽新聞社主催)の最終審査会が11月23日、倉敷市本町の倉敷市民会館で開かれ、グランプリには体の動きをアシストする人工筋肉スーツを開発したダイヤ工業株式会社(岡山市)の小川和徳さんが輝いた。

コンテストはビジネス部門がスタートアップの部(創業後5年未満)とイノベーションの部(創業5年以上)、ビジネスプラン部門が高校生の部、大学・専門学校生の部、一般の部の計2部門5部。85組の応募の中から1次の書類審査、2次のプレゼンテーション審査を通過したファイナリスト15組が出場。1人3分の持ち時間で発表し、早稲田大学ビジネススクール教授の長谷川博和氏ら6人が独自性や地域貢献度などを審査した。

各部の大賞は、ビジネス部門スタートアップの部=株式会社

ウィズレイ(岡山市)の森山圭さん▶同イノベーションの部=patternstorage(同)の今井恵子さん▶ビジネスプラン部門高校生の部=金光学園高等学校の渡辺陽さん、和田雄喜さん▶同大学・専門学校生の部=福山市立大学の瀬田浩大さん。同一般の部の大賞は該当者がいなかった。MASC賞は瀬田浩大さん、サンマルク賞はビジネス部門スタートアップの部から耕作イタリアンE-Flat(赤磐市)の藤原祐哉さん、審査員特別賞は同部から下着屋Clove(岡山県早島町)のポーマン三枝さんが選ばれた。

賞金はグランプリ200万円、大賞100万円(大学生は50万円、高校生は20万円)。大学生以上には米シリコンバレーへの研修旅行も贈られた。

基調講演はクラウドファンディングサイト(CF)を運営するREADYFOR株式会社代表取締役CEOの米良はるか氏が「クラウドファンディングを通じた新しいお金の流れ」と題し、夢に向かって挑戦する人を資金面で支援する取り組みなどを紹介した。

コンテストは地方創生を担う起業家の育成を目指す「岡山イノベーションプロジェクト」の事業で3回目。

15組、革新的ビジネス発信

出る杭集結



入賞(大学・専門学校生の部)

全スタ

川崎医療福祉大学 光岡 歩美さん

私が提案するのは写真共有アプリを使い、戦略的な企業の情報発信を代行するサービスだ。企業に広報戦略を提案し、カメラマンが写真を撮影。その素材を使って、ネットで影響力のある「インフルエンサー」が更新していく。

情報集積ツールも活用すれば、いつ、どこで、だれが、どの記事を読んでいるか一目瞭然で分かる。「いいね」の数やフォロワー数が新しい広告の価値。アプリは世界共通。岡山から世界へ情報発信し、インバウンド需要も呼び込みたい。

